

課題解決に向けた行動計画

北海道 市立函館病院

2023年度
第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
市立函館病院	中西一彰(医師 副院長)
	渡邊貴代(看護師 がん相談員)
	松本百代(看護師 緩和ケア認定看護師)
	越野雅人(事務員 地域連携課)

令和5年度 第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）



市立函館病院

①地域の課題

1) 道南地域の広さと医療介護環境の格差

情報共有をどうするか？

- ・ 訪問診療や訪問看護ステーションが届かない地域
- ・ 地域の医療機関とのリモートを使った医療相談・教育のシステムがない

★ID-LiNK（地域医療連携ネットワークサービス）が高評価。

患者の医療介護情報が見える・メモ機能の利用
今後も活用していくための方向性

2) "ギリギリまでの治療"と最期の療養の場のバランス



医療を受けながら、
地域でどのように生活していくのか？の
方向性の共有（医療者・患者・家族など）
バックアップ・フィードバック体制

2人の主治医制度と 早期からの療養・緩和ケアの強化



地域のかかりつけ医の役割・介入 ＝療養や緩和ケアへの橋渡し

当院での治療が落ち着いたら、
再び地域の「かかりつけ医・医療機関」へ

ご不明な点は [患者サポートセンター](#) までお問い合わせください

市立函館病院では、国の政策に基づき
「かかりつけ医」と「総合病院」が役割分担を明確にし、
協力し合って、質の高い医療を提供できるよう努めています

②どのような地域を目指すのか

1) 道南の広さをカバーするためのICT化

→ID-LiNKの活用

2) 専門的治療をする医師と地域のかかりつけ医が 地域の現状を話し合うことができる場をつくる

→道南がん診療連携協議会の活動



顔の見える連携づくりの場として利用する。

③課題ごとに取り組むべきことは何か

1) ICT化で地域格差を是正する。

課題：双方向化のためには費用負担がある。

地域の医療介護機関によっては

電子カルテ化されていない。

2) 道南がん診療連携協議会内の多職種からなる

緩和ケア部会等で地域の現状を評価、相互理解する。

・ ・ ・ 現在進行中

④具体的な行動計画⑤実施時期

課題	誰が	何を	どのように	いつまでに
ICT化 ID-LiNKの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立函館病院 ・ 函館市医師会 ・ 函館市医療介護連携支援センター等 	情報共有として”メモ機能”の活用 （双方性の担保として）	地域の病院や診療所	将来の理想
顔の見える連携づくり 道南がん診療連携協議会の活動	拠点病院・指定病院の計4病院	総合病院と地域医療機関で緩和ケア等を話し合う場をつくる	対面で（リモートハイブリッドも検討）	2023年度内